

QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 26 No.3, 2019



「銚子ジオパークを特徴づけるキャベツ畑と風力発電」 キャベツは、台地の地形と温暖な気候を利用して、1年に3回も収穫できるので換金性が高く、ブランド化されている。年間を通して風が強く、地盤が良いので、風力発電が盛んである。(撮影：植木岳雪)

Vol. 26 No. 3

June 1, 2019

2019年大会案内(第5報)..... 211
2019-2020 役員選挙結果報告..... 7	国際サマースクール案内.....11
学生会員継続届け提出のお願い(再掲) 10	水月湖テフラ研究講演会報告..... 12
評議員会開催案内..... 10	評議員会議事録..... 14
学会賞・学術賞受賞記念講演会案内..	執行部会議事録..... 15
	会員消息..... 16

◆日本第四紀学会 2019年大会案内 (第5報)

本大会は、一般研究発表(口頭およびポスター)、公開シンポジウム「関東平野東部における第四紀研究の最近の成果」、普及講演会「第四紀研究の最前線」、ジオパーク体験巡検および専門巡検を中心に、千葉科学大学と銚子ジオパークが共同で開催します。

1. 大会テーマ 「第四紀学とジオパークの連携：ジオパークで学会を開催する意義」

共同主催 日本第四紀学会、銚子ジオパーク推進協議会

共 催 千葉科学大学、産業技術総合研究所地質調査総合センター(予定)

2. 開催場所

8月23日(金)～24日(土) 千葉科学大学マリーナキャンパス(一般研究発表)

口頭発表 講義棟2階2208教室、ポスター発表 5号館2階5203・5204教室

〒288-0025 千葉県銚子市潮見町15-8

<http://www.cis.ac.jp/information/access/index.html>

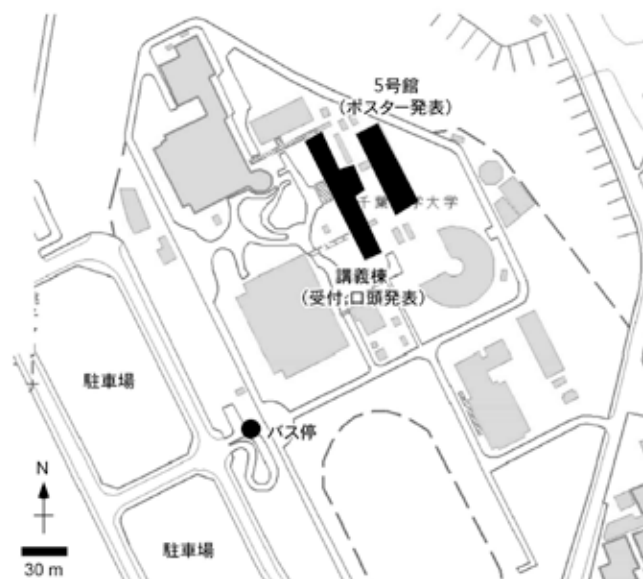
アクセス JR総武線「銚子」駅下車、バスターミナルから千葉交通バス10分、「千葉科学大学マリーナ前」下車すぐ。

大学には学生用の駐車場がありますので、車による会場への来訪をお勧めします。

8月25日(日) 銚子市すこやかなまなびの城(公開シンポジウム、普及講演会)

〒288-0047 千葉県銚子市若宮町4-8(銚子市役所向かい)

https://www.city.choshi.chiba.jp/sisei/about_choshi/profile/access.html



千葉科学大学構内図



千葉科学大学へのルート



すこやかなまなびの城の位置

3. 開催日程 2019年8月23日(金)～8月26日(月)

- 8月23日(金) 9:00～12:00 一般研究発表(口頭およびポスター)
 12:00～14:30 昼休み、ミニジオツアー
 ポスター発表コアタイム(13:30～14:30)
 14:30～18:00 一般研究発表(口頭およびポスター)
 18:30～20:00 日本第四紀学会評議員会
 18:30～19:30 屏風ヶ浦サンセットクルーズ
- 8月24日(土) 9:00～12:00 一般研究発表(口頭およびポスター)
 12:00～14:30 昼休み、ミニジオツアー
 ポスター発表コアタイム(13:30～14:30)
 14:30～16:00 一般研究発表(口頭およびポスター)
 16:00～18:00 日本第四紀学会総会・各賞授賞式
 19:00～21:30 懇親会
- 8月25日(日) 9:00～12:00 公開シンポジウム「関東平野東部における第四紀研究の最近の成果」
 12:00～13:30 昼休み
 13:30～15:40 普及講演会「第四紀研究の最前線」
 13:00～16:00 ジオパーク体験巡検「銚子のかたい岩めぐり」
- 8月26日(月) 専門巡検「銚子周辺における第四紀の地形・地質・考古」

4. 各種締め切り日

- ・一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出：6月21日(金)17時
- ・シンポジウムの講演要旨原稿提出：6月21日(金)17時
- ・屏風ヶ浦サンセットクルーズ参加申し込み：7月26日(金)17時
- ・ジオパーク体験巡検参加申し込み：7月26日(金)17時
- ・専門巡検参加申し込み：7月26日(金)17時
- ・懇親会事前予約：7月26日(金)17時

5. 一般研究発表：口頭発表・ポスター発表はそれぞれ1会場で開催します。**6. 公開シンポジウム「関東平野東部における第四紀研究の最近の成果」**

銚子を中心とした関東平野東部における第四紀学とそれに関わる基盤地質、古生物の最近の研究成果をレビューしていただきます。

- 8月25日(日) 銚子市すこやかなまなびの城。参加費無料。事前申し込み不要。
- 9:00～9:45 「日本列島東西圧縮の原因—海底から大地、そして山国へ—」 高橋雅紀(産総研)
 9:45～10:15 銚子地域における層序・テフラに関する第四紀編年研究：関東平野形成過程復元のための優れた標準層序提供フィールド 鈴木毅彦(首都大学)
- 10:15～10:30 休憩
 10:30～11:00 過去の多様性はどこまで保存されているか：日本最大の鯨類化石産地・銚子市名洗層“下部”の鯨類化石群 村上瑞季(秀明大学)
- 11:00～11:30 九十九里海岸の地形と表層地質 田村 亨(産総研)
 11:30～12:00 霞ヶ浦・利根川流域における縄文時代の環境と貝塚 一木絵理(上高津貝塚ふるさと歴史の広場)

7. 普及講演会「第四紀研究の最前線」

若手と中堅の第四紀学の研究者から、最先端の研究成果を市民にわかりやすく解説していただきます。専門研究者もぜひお越しください。

- 8月25日(日) 銚子市すこやかなまなびの城。参加費無料。事前申し込み不要。
- 13:30～14:20 安定した気候の時代はいかに始まり、いかに終わるのか：2つの地質学的記録と「文明の時代」の寿命 北場育子(立命館大学)
 14:30～15:20 堆積物から探る関東の巨大地震と津波 藤原 治(産総研)
 15:20～15:40 市民からの質問タイム

8. 屏風ヶ浦サンセットクルーズ

夕日の時間に合わせて船に乗り、鮮新一更新統が露出する屏風ヶ浦の雄大な露頭を、海から眺めます。運が良ければイルカにも会えます。洋上で風力発電の風車も回っています。

8月23日(金) 18:30～19:30(予定)

- ・案内者：安藤生大・手束聡子(千葉科学大学)
- ・費用：2,000円。会場受付でお支払いください。事前申し込み必要。定員40名(先着順)、最小携行人数10名。最小携行人数に達しない場合、天候により船が出ない場合は中止。海水のしぶきがかかることがあります。酔いやすい人は酔い止め薬を服用してください。

9. ミニジオツアー

大学すぐそばの自然を体験するツアーと、養殖施設の見学、理科教育の体験授業を昼休みに行います。全て無料、事前申し込み不要。12:15に会場受付に集合してください。

8月23日(金) 12:15～13:15(予定)

- ・犬吠層群中の第四紀基底と広域テフラ 案内者：銚子ジオパーク認定ガイド。学外を徒歩で移動します。人数制限なし。
- ・犬吠埼の温泉と灯台からの地形遠望 案内者：手束聡子(千葉科学大学)。マイクロバスで移動します。先着20名。灯台の入場料200円が必要です。天候により灯台に登れないことがあります。
- ・海と川の魚が共存する不思議な水「好適環境水」 案内者：山口太一(千葉科学大学)。学内を徒歩で移動します。人数制限なし。好適環境水によるカニやウナギの養殖施設を案内します。

8月24日(土) 12:15～13:15(予定)

- ・犬吠層群中の第四紀基底と広域テフラ 案内者：銚子ジオパーク認定ガイド。学外を徒歩で移動します。人数制限なし。
- ・神社の自然林(照葉樹林)と砂浜上の二次林の遷移 案内者：糟谷大河(慶應義塾大学)。マイクロバスで移動します。先着20名。
- ・楽しい理科の授業「ころりん」の体験 案内者：塚本浩司(千葉科学大学)。学内の教室で行います。人数制限なし。学校の先生のネタとしておすすめです。

10. ジオパーク体験巡検「銚子のかたい岩めぐり ―銚子の恵みはかたい岩のおかげ 岩はかたいけれど話はやわらかいよー」

8月25日(日) 13:00～16:00

- ・銚子市内のジオサイトをバスで巡り、ジオパークで普段行っているツアーを体験していただきます。キャベツやダイコン生産などの農業、日本一の水揚げを誇る漁業、江戸の食文化を支えた醤油産業など、銚子は日本有数の産業があるまちです。実はこれらの産業が栄えた理由の一つは、硬い岩石が銚子に露出していたことにあります。銚子の硬い岩を見学しながら、銚子の産業の秘密にせまります。
- ・案内者：銚子ジオパーク認定ガイド。
- ・費用：1000円。会場受付でお支払いください。事前申し込み必要。定員40名(先着順)。
- ・観察場所：銚子市役所(集合)→地球の丸く見える丘展望館→犬岩→外川→犬吠埼→千人塚→JR銚子駅(解散)

11. 専門巡検「銚子周辺における第四紀の地形・地質・考古」

8月26日(月) 9:30 千葉科学大学(集合)、9:40 JR銚子駅(集合)～16:15 JR飯岡駅(解散)、16:45 JR銚子駅(解散)、17:00 千葉科学大学(解散)

- ・銚子から九十九里平野をバスで巡り、地形・第四系・貝塚を観察します。
- ・案内者：中里裕臣(農研機構)・岡崎浩子(千葉県立中央博物館)・田村 亨(産総研)・赤塚弘美(銚子ジオパーク)・植木岳雪(千葉科学大学)
- ・費用：2000円。会場受付でお支払いください。事前申し込み必要。定員40名(先着順)。
- ・観察場所・内容：千葉科学大学→JR銚子駅→余山貝塚→高田川付近の中部更新統とテフラ→飯岡台地中央部の最終間氷期の海浜堆積物→昼食、ジオパーク展示室見学、九十九里平野で掘削されたボーリングコアの観察→刑部岬展望台から九十九里平野の地形の遠望→飯岡地区における現成の海浜堆積物→飯岡石の石垣→旧海上町の中中部更新統とテフラ→JR飯岡駅→JR銚子駅→千葉科学大学

12. 懇親会「銚子電鉄に乗ってジオを楽しみ、親睦を深める」 8月24日(土) 19:00～21:30

銚子電鉄はわずか6.4kmのローカル線ですが、近年の経営危機により、ぬれ煎餅、「まずい棒」、駄洒落を効かせたネーミングライツ、おばけ屋敷列車など、さまざまな経営努力をしています。ジオパークの観点からは、電車の線路は段丘地形を上手に利用、克服して作られています。今回の懇親会では、銚子電鉄に乗ってジオを楽しみ、電車の車庫の中で大会参加者の親睦と意見交換を行うことにしました。ジオパークならではの懇親会をお楽しみください。

- ・費用：一般5000円(予約)、6000円(当日)、院生・学生3000円(予約)、4000円(当日)。会場受付でお支払いください。事前申し込み必要。定員60名(先着順)。
- ・懇親会の流れ：千葉科学大学18:15発 → (送迎バス) → 外川港 → (徒歩5分) → 外川駅18:45着電車19:00発 → (銚子電鉄の車中でビール) → 銚子駅 → (銚子電鉄) → 仲之町駅車庫に電車が入る19:30着 車庫の中で各種アルコールと料理で懇談21:30終了、現地解散
- ・仲之町駅と銚子駅は300m程度の距離です。
- ・お願い：地酒、地ビール、地元のつまみなど、差し入れをお待ちしています。

13. 各種申し込みと講演要旨原稿の送付方法

1) 一般研究発表の申し込み

(1) 発表者の資格と発表件数の制限

一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者(資格は会員であること)としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ1人1件の発表申し込みが可能です。

(2) 発表形式と発表時間

発表形式は、口頭発表(オーラルセッション)およびポスター発表(ポスターセッション)がありますので、発表申込用紙で希望する方を選択してください。発表件数によっては、必ずしも希望の形式にならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。口頭発表(オーラルセッション)の時間は1件15分程度(質疑応答時間含む)を予定しています(発表件数によって変更の可能性があります)。十分な説明や討論を希望する方には、ポスター発表(ポスターセッション)への申し込みをお勧めします。また、ポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設けています。

(3) 発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り

一般研究発表の希望者は、日本第四紀学会ホームページ(<http://quaternary.jp/>)の「2019年大会案内(第4報)」の「2019年大会のお知らせ」にある「発表申込書」と「講演要旨の原稿」へのリンク部分からファイルをダウンロードし、必要事項を記入の上、以下の案内に沿って申し込みを行ってください。講演申し込みと講演要旨原稿の提出をもって受付とします。

- ・発表申込書と原稿は添付ファイルとして専用のアドレス [jaqua2019presen\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2019presen(at)gmail.com) に送付してください(atを@に変える)。メール件名は「発表申込_筆頭発表者名」、添付するファイルの名前は「講演要旨_筆頭発表者名」としてください。2件申し込む場合は題名の後ろにA、Bをつけて両者を区別して送信してください。受付期間は6月3日(月)から6月21日(金)17時です。
- ・講演要旨の原稿はA4で1ページ(図表掲載可)です。「2019年大会のお知らせ」の「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。
- ・本学会員のうち2019年8月1日現在で39歳以下の方は若手発表賞に、学生・大学院生の方は学生発表賞にエントリーできます。エントリー希望の方は、申込書の該当箇所に記入してください。積極的なエントリーを期待しています。

2) シンポジウム依頼講演者の講演要旨の送付方法および締め切り

シンポジウムはすべて依頼講演形式とします。シンポジウム依頼講演者の方は、13.1)(3)「発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り」に従った形式のファイルを、専用アドレス([jaqua2019presen\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2019presen(at)gmail.com))あてに電子メールの添付ファイルでお送りください。メールの件名とファイル名は「シンポジウム講演要旨:筆頭発表者名」としてください。受付期間は6月21日(金)17時です。

14. 大会・巡検・懇親会の参加費等

◎大会参加費：2000円(会員・非会員を問わず)。会場受付でお支払いください。ただし、大学院生は1000円、70歳以上の会員、学部学生は無料です。

講演要旨集：予定価格2000円(会場で直接販売。ただし、発表数等によって価格が若干変動する場合)

があります)。

自家用車：千葉科学大学マリーナキャンパスの学生駐車場に止められます。

- ◎屏風ヶ浦サンセットクルーズに参加される方は、申し込みをお願いします。

日時：8月23日(金) 18:30～19:30(予定)

定員：40名(先着順)

集合：銚子海洋研究所前(大学のすぐそば) 18:20

参加費：2000円

予約方法：7月26日(金) 17時までに、専用アドレス(jaqua2019event(at)gmail.com)あてに電子メールでお申し込みください。申し込み時のメール件名は「サンセットクルーズ_氏名」としてください。

自家用車：千葉科学大学マリーナキャンパスの学生駐車場に止められます。

- ◎ジオパーク体験巡検に参加される方は、申し込みをお願いします。

日時：8月25日(日) 13:00～16:00(予定)

定員：40名(先着順)

集合：銚子市すこやかなまなびの城前(銚子市役所) 12:50

解散：銚子駅 16:00(予定)

参加費：1000円

予約方法：7月26日(金) 17時までに、専用アドレス(jaqua2019event(at)gmail.com)あてに電子メールでお申し込みください。申し込み時のメール件名は「ジオパーク体験巡検_氏名」としてください。

自家用車：すぐそばの市役所の駐車場に止められます。

- ◎専門巡検に参加される方は、申し込みをお願いします。

日時：8月26日(月) 9:30～17:00(予定)

定員：40名(先着順)

集合：千葉科学大学マリーナキャンパス入り口 9:30、JR 銚子駅 9:40

解散：JR 飯岡駅 16:15、JR 銚子駅 16:45、千葉科学大学マリーナキャンパス入り口 17:00

参加費：2000円

予約方法：7月26日(金) 17時までに、専用アドレス(jaqua2019event(at)gmail.com)あてに電子メールでお申し込みください。申し込み時のメール件名は「専門巡検_氏名」としてください。

自家用車：千葉科学大学マリーナキャンパスの学生駐車場に止められます。

- ◎懇親会に参加される方は、申し込みをお願いします。

日時：8月24日(土) 19:00～21:30

定員：60名(先着順)

集合：大会受付 18:05、または銚子電鉄銚子駅ホーム 19:25

予約方法：7月26日(金) 17時までに、専用アドレス(jaqua2019event(at)gmail.com)あてに電子メールでお申し込みください。申し込み時のメール件名は「懇親会_氏名」としてください。

お願い：地酒、地ビール、地元のつまみなど、差し入れをお待ちしています。

自家用車：宿泊施設や千葉科学大学マリーナキャンパスの学生駐車場に止めておき、運転しないようにしてください。

15. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：植木岳雪(千葉科学大)

大会実行事務局長：岩本直哉(銚子ジオパーク)

実行委員：安藤生大・塚本浩司・手束聡子・山口太一(以上、千葉科学大)、糟谷大河(慶応義塾大)、小川正俊・山内祥行・高根 咲・赤塚弘美(以上、銚子ジオパーク事務局)、工藤忠男(銚子ジオパーク市民の会)

行事委員会：藤原 治(産総研)・加 三千宣(愛媛大)・米田 穰(東京大)・岡田 誠(茨城大)・山田和芳(ふじのくに地球環境史ミュージアム)

連絡先：2019年大会実行委員会事務局

〒288-0025 千葉県銚子市潮見町15-8 千葉科学大学危機管理学部 植木岳雪
(TEL: 0479-30-4647、メール: tueki(at)cis.ac.jp)

2019年4月26日

日本第四紀学会会長
齋藤文紀 殿

◆日本第四紀学会 2019-2020 年度役員選挙結果報告（答申）

日本第四紀学会選挙管理委員会 委員長 岩瀬 彬
委員 石村大輔
委員 石輪健樹
委員 大上隆史
委員 杉戸信彦

日本第四紀学会会則および役員選挙規程に基づき、日本第四紀学会 2019-2020 年度役員選挙を行いました。選挙までの経過、選挙結果並びに今回の選挙に関するコメントを報告いたします。

1. 経過

1) 第1回選挙管理委員会を2月19日（火）に開催し、役員選挙規程と会則の主な改正点（選挙権および被選挙権を有する会員の条件、各領域の評議員定数、投票方法など）を確認した。その上で、新しい投票方法：電磁的なシステムによる投票（ウェブ投票）を実施することを確認するとともに、被選挙人名簿、選挙権（投票権）を有する正会員数、領域別評議員数を確定した。またこれに加えて、ウェブ投票が困難な選挙人のために、郵便による投票も併行して実施することを確認した。

また選挙日程を次のように確定した。

- 3月4日（月）：選挙公示と立候補・推薦候補者受付開始に関する会告の発送、立候補届・推薦届・辞退届の各書式を学会HPへ掲載
 - 3月18日（月）：立候補・推薦届出書の締め切り
 - 3月25日（月）：候補者辞退届の締め切り、候補者確定、郵便による投票の事前申請の締め切り
 - 4月2日（火）：郵便による投票希望者へ候補者名簿・投票用紙・返信用封筒の郵送
 - 4月3日（水）12:00～：ウェブ投票開始、郵便による投票開始、候補者確定の報告と投票案内に関する会告・ウェブ投票の方法を「会員マイページお知らせ」へ掲載
 - 4月24日（水）～12:00：ウェブ投票の締め切り、郵便による投票（必着）
 - 4月26日（金）：郵便による投票の開票、ウェブ投票の結果の受け取り、当選者の確定
- 2) 3月18日（月）の締め切りまでに、郵便による投票の事前申請がなかったため、今回の役員選挙では、ウェブ投票のみを実施することを確認した。
- 3) 3月25日（月）の締め切りまでに候補者辞退届は提出されなかったため、候補者を確定した。また届出の結果、会長候補者は1名（推薦）、副会長候補者は2名（共に推薦）であったため、役員選挙規程に基づき、無投票当選となった。そのため今回の役員選挙では評議員の選出のみを対象とすることとなった。また評議員の立候補・推薦候補者は合計8名となり、いずれの領域についても定数以内であることを確認した。
- 4) 4月3日（水）12:00からウェブ投票を開始し、会員メーリングリストを用いて評議員選挙の開始を告知した。また会員マイページの選挙用ページに、会長および副会長の候補者が定数以内であったため無投票当選すること、評議員選挙のみを実施すること、そして評議員の候補者が確定したことを会告として掲載した。
- 5) 4月24日（水）12:00をもってウェブ投票を締め切った。今回の評議員選挙の結果、選挙権（投票権）を有する正会員873名のうち、投票完了は116名（うち2名は白票で投票）となり、投票率は13.3%であった。なお投票期間中には2回にわたり会員メーリングリストを用いて評議員選挙の投票を呼びかけた。前回の評議員選挙における投票率は23.4%（248/1059）であり、それに比べて今回の選挙では投票率は10ポイント以上低下したことになる。なお投票枠（評議員総計41名枠×正会員873名=35,793投票枠）に基づいて領域別の投票率をみると、領域1は6.38%（334/5,238）、領域2は6.89%（662/9,603）、領域3は6.51%（398/6,111）、領域4は7.08%（618/8,730）、領域5は8.05%（492/6,111）となり、全体的に低調である。領域5において投票率がやや高いことの要因として、他の領域にくらべて領域5の立候補・

役員選挙結果報告

推薦候補者数が多かったことを指摘できる。

6) 第2回選挙管理委員会を4月26日(金)に開催し、第四紀学会事務局よりウェブ投票の結果を受け取り、当選者を確定した。

2. 立候補・推薦候補者受け付け結果(役職・領域・受け付け順)

それぞれの役職に対して、下記会員からの立候補・推薦があった。なお会長候補、副会長候補はそれぞれ定数以内であり、無投票当選となった。

1) 会長(定数1名)

齋藤文紀(領域1、推薦、推薦者:吾妻 崇・百原 新)・・・無投票当選

2) 副会長(定数2名)

鈴木毅彦(領域3、推薦、推薦者:兵頭政幸・吾妻 崇・須貝俊彦)・・・無投票当選

高原 光(領域4、推薦、推薦者:松浦秀治・百原 新・齋藤文紀)・・・無投票当選

3) 評議員

領域1(定数6名)

なし

領域2(定数11名)

奥村晃史(立候補)、白井正明(推薦、推薦者:鈴木毅彦・北村晃寿)

領域3(定数7名)

なし

領域4(定数10名)

北村晃寿(立候補)、工藤雄一郎(立候補)

領域5(定数7名)

目代邦康(立候補)、植木岳雪(立候補)、米澤正弘(立候補)、小森次郎(立候補)

4) なお、この他に1名の正会員から評議員の立候補届出書が届いたものの、届出期間を過ぎていたため届出を受理しなかった。また当該年度の会費未納入の会員1名から評議員の立候補届出書が届いたものの、被選挙権を有しないため届出を受理しなかった。

3. 評議員選挙当選者

選挙の結果、下記会員が当選となった。次点者を含めて報告する(領域別50音順)。

領域1(気候変動及び海洋の諸プロセス):定数6名

阿部彩子、池原 研、池原 実、川幡穂高、中川 毅、横山祐典、(次点:岡崎浩子)

領域2(陸上の諸プロセス):定数11名

奥村晃史、苅谷愛彦、小岩直人、小松原 琢、穴倉正展、白井正明、須貝俊彦、藤原 治、堀 和明、三浦英樹、宮内崇裕、(次点:片岡香子)

領域3(層序と年代基準):定数7名

青木かおり、卜部厚志、岡田 誠、里口保文、長橋良隆、兵頭政幸、水野清秀、(次点:菅沼悠介)

領域4(人類と生物圏):定数10名

出穂雅実、江口誠一、海部陽介、北村晃寿、工藤雄一郎、近藤 恵、齋藤めぐみ、澤井祐紀、那須浩郎、百原 新、(次点:堤 隆)

領域5(現代社会に関わる第四紀学):定数7名

植木岳雪、小荒井 衛、小森次郎、竹村恵二、目代邦康、山田和芳、米澤正弘、(次点:三田村宗樹)

4. 役員選挙(事務)に関するコメント

1) 選挙規程第8条により、選挙管理委員も会長・副会長・評議員の立候補・推薦候補者になることができるようになった。しかし選挙の実施に深く関わる選挙管理委員が、これらの候補者になることは本来好ましくなく、不正が生じる可能性を排除できない。また仮に選挙管理委員全員が辞任することになると、選挙運営が不可能になるため、この規程には問題があると考えられる。選挙規程の改正について検討いただきたい。

2) 所属領域未指定の正会員が被選挙権および選挙権を持ってないことを、役員選挙規程を改正し、明記することを検討いただきたい。ただし会則第15条:「正会員はいずれかの領域に所属するものとする」とあり、

所属領域のない正会員を会則上は認めていないため、選挙規程に明記することが適切かどうかについても議論する必要があると考える。

3) 前回の役員選挙から選挙方法を大きく変え、立候補・推薦候補者を予め選出する方法を採用したものの、立候補・推薦候補者数は前回の19名から8名へと大きく減少した。役員選挙への関心の低さを反映している可能性があり、何かしらの対策を講じることについて検討いただきたい（役員からの推薦など）。

4) 役員選挙規程第29条：「次期会長と次期副会長が評議員に当選した場合は評議員の当選を無効とする」とある。今回の選挙では、会長および副会長ともに無投票当選となったが、評議員選挙において副会長当選者へ評議員として投票してしまう無効票が少なからず生じている。無効票が生じる可能性を排除するため、役員選挙規程の改正を検討いただきたい（会長・副会長への当選が確定した場合は、評議員としての被選挙権を失うなど）。

5) 前回の役員選挙と比較して、10ポイント以上も投票率が低下した。複数の要因が考えられ、対策を講じる必要があると考える。

①当該年度の会費を未納入の場合、選挙権・被選挙権を失うため、選挙権（投票権）をもつ正会員数が1059名から873名へ減少した。投票意欲を持っていた正会員が多く含まれていた場合、投票率の低下を招いた可能性がある。次回役員選挙に際しては、会費を未納入の場合、選挙権・被選挙権を失うことを事前に周知し、会費納入を強く促進するとともに、選挙権（投票権）を有する正会員数を確保する必要がある。

②前回の役員選挙では選挙の開始を郵便にて告知したものの、今回の選挙においては会員メーリングリストのみによって告知した。メーリングリストを流した4/5時点での正会員数1,064名のうち、934名がメーリングリストに登録している。会員メーリングリストに登録していない正会員は、選挙の開始をリアルタイムで知ることができず、その後のリマインドメールも受け取れないことになる。投票率低下につながった可能性がある。次回役員選挙においては、会員メーリングリストへの登録を呼びかけるとともに、選挙開始の会告を郵送する必要があるのかもしれない（例：選挙前あるいは選挙期間中に刊行・送付される第四紀研究・第四紀通信に選挙開始の告知を同封するといった、選挙の呼びかけに関する工夫を講じる必要がある）。

③ウェブ投票への変更によって、煩雑化した部分もある。例えば会員マイページへログインするためには、会員番号およびパスワードの入力が必要になる。また会員番号やパスワードを紛失した場合、それらの再発行・確認には時間を要する。こうした煩雑さが投票行動へのネガティブな要因となった可能性がある。会員マイページのログイン画面に「会員番号は第四紀学会からの郵送物の宛名面に記載されています」などの案内を表示するなど、ログインに関わる手間を軽減する工夫が必要と考える。

6) 役員選挙規程第28条：「当選人を定めるに当たり、得票数が同数であるときは年長順とする」とある。今回の選挙では次点者の確定に際して、得票数が同数の者がいたため、この規程を援用して、年長順に次点者、次々点者を確定した。次点者の確定方法について、役員選挙規程への明記を検討いただきたい。

7) ウェブ投票の導入により、開票作業および当選者の確定作業が極めて簡便・迅速となった。前回の郵便による投票では、開票・集計に6時間ほど要していた作業が、今回のウェブ投票では1時間弱で当選者を確定することができた。また集計ミス等の問題も起きていない。今後もウェブ投票を継続することが望まれる。

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い（再掲）

日本第四紀学会では、学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。

2019年度（2019年8月1日～2020年7月31日）を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙（様式自由・ワープロ使用）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを**2019年6月22日(土)**までに日本第四紀学会事務局まで郵送またはメール添付にてお送り下さい。本届が提出されない場合は、2019年度第1回目会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。

また、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは正会員会費となります。

問合せ・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号

新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com

TEL：03-5291-6231 / FAX：03-5291-2176

提出方法：郵便もしくはメール添付にてお送りください。

◆2018年度第3回評議員会の開催について

下記の日程で、日本第四紀学会2018年度第3回評議員会が開催されます。評議員のみなさまにおかれましては、ご出席の程、よろしくお願い致します。なお、評議員および会長経験者の方には通知が送付されますので、出欠回答およびご欠席の場合には委任状の提出をお願い致します。

日時：2019年6月30日（日）10:00～12:00

場所：東京大学理学部2号館講堂

議事（予定）：

- (1) 2019年学会賞・学術賞・若手学術賞の受賞者選考について
- (2) 2019年論文賞・奨励賞の受賞者選考について
- (3) 2019-2020年度における執行部会等の体制について
- (4) 「投稿規定」の一部改訂について
- (5) その他

なお、評議員会終了後には、同じ会場におきまして「2018年学会賞・学術賞受賞記念講演会（第2回）」（講演者：森 勇一会員・山崎晴雄会員）を開催いたします。こちらへのご参加もよろしくお願い致します。

◆日本第四紀学会 2018 年学会賞・学術賞記念講演会（第 2 回）

[期 日]: 2019 年 6 月 30 日 (日) 13:30 ~ 15:30
 [場 所]: 東京大学理学部 2 号館 (本郷キャンパス)
 (参加無料、申し込み不要)

13:00 ~ 受付開始
 13:30 ~ 13:35 開会あいさつ
 13:35 ~ 14:25 学会賞受賞講演 山崎晴雄会員: 地形発達史研究 40 年
 14:25 ~ 14:35 休憩
 14:35 ~ 15:25 学術賞受賞講演 森 勇一会員: 昆虫考古学を究める
 15:30 閉会

◆活構造・変動地形に関する国際サマースクール開催のお知らせ
(9 月 24 日 ~ 27 日: チェコ)

INQUA の TERPRO 委員会の Focus Group である Earthquake Geology and Seismic Hazard が主催する「INQUA International Summer School on Active Tectonics and Tectonic Geomorphology」が 2019 年 9 月 24 日から 9 月 27 日にかけてチェコのプラハで開催されます。参加登録の締切は 6 月 20 日となっております。参加をご希望される方は、登録サイト (<https://www.irsm.cas.cz/summer-school/>) からお申込みください。行事の詳細については、窓口となっている Petra Štěpančíková 博士 (summerschool(at)irsm.cas.cz) か領域 2 の吾妻 (takashi_azuma(at)icloud.com) へお問合せください。



**INQUA International Summer School
on Active Tectonics and Tectonic Geomorphology**

24-27 September 2019, Prague, Czechia
 Institute of Rock Structure and Mechanics
 first circular

Predominantly for students, PhD students, early career researchers (max. 40 participants)

Program

23 September Monday
 arrival in Prague, own accomodation, Icebreaker 7PM

24 September Tuesday
 Registration, Open ceremony at 9AM, Preliminary Lectures:
 1. Historical earthquakes and archeoseismology
 2. Paleoseismology and its tools
 3. Specific paleoseismological problems in intraplate regions
 4. Methods for dating earthquakes
 5. Tectonic modelling from geodesy

25 September Wednesday
 1. Seismically triggered landslides
 2. Seismites versus periglacial features
 3. Tectonic geomorphology
 4. Secondary seismic hazard (liquefaction, tsunamis etc.)
 5. Seismic hazard assessment

26 September Thursday
 Departure to the field, Field trip and training course (geophysical methods etc.)
 Cenozoic Eger rift, Overnight in Nový Drahov near Františkovy Lázně Spa

27 September Friday
 Field trip and training course, Geodynamic phenomena in Cheb basin (earthquake swarms, CO₂ emanations, Quaternary volcanoes etc.),
 Dinner in the stylish restaurant on the way back, Evening Arrival in Prague

Venue:
 Conference centre in the Institute of Rock Structure and Mechanics
 Address: V Holešovičkách 41, Praha 8, 18209

Registration
 Registration fee: 100 EUR (includes material, coffee breaks, field trip - lodging, meals, material, transport)
 Register at: <https://www.irsm.cas.cz/summer-school>

Deadlines
 Registration: 20 June 2019
 Travel grant applications for students and early career researchers: 31 May 2019
 Please send 1 page CV, a short motivation letter (max. 10 lines), and required support (short budget) to Christoph Grützner
 christoph.gruetzner@uni-jena.de

Payment: 31 July 2019

Contact:
 Petra Štěpančíková, summerschool@irsm.cas.cz

Organized by
 Institute of Rock Structure and Mechanics, Czech Academy of Sciences, Prague
 Charles University in Prague, Faculty of Science

◆水月湖テフラ研究に関する講演会報告

首都大学東京 都市環境学部 鈴木毅彦

福井県、水月湖の年稿堆積物が第四紀の研究を進めていく上で極めて重要な場所であることはいまや世界的に知られています。その年稿は放射性炭素年代測定の較正に適用可能な標準目盛として大きな役割を果たしてきました。一方、水月湖の湖底堆積物は年稿を伴うだけでなく、環境変動の指標となる花粉や爆発的な噴火により拡散したテフラも含むため、第四紀の諸分野の研究に関わりをもちます。例えばテフラに関しては、これまで多くの議論があった始良 Tn テフラ (AT) の年代が水月湖で 30 ka とされ (Smith et al., 2013)、現在この年代値が広く引用されています。水月湖の湖底堆積物はテフラにとっては良好な保存環境を提供しており、当然 AT 以外のテフラについてもその分布や層位、年代について重要なデータを提供する潜在力をもちます。最近数年間に水月湖のテフラについて重要な論文が相次いで発表されてきました (文末参考)。これらは英国、オックスフォード大学のグループが中心になって進められてきました。このようなタイミングで 2019 年 2 月にグループのメンバーが来日し、東京都八王子市の首都大学東京で水月湖テフラ研究に関する講演会が本学会の領域 1「気候変動及び海洋の諸プロセス」と領域 3「層序と年代基準」ならびに同大学火山災害研究センターにより企画されました。

講演は 2 月 13 日の 13:30 より同大学の南大沢キャンパス、国際交流会館中会議室で実施されました。2 件の講演からなり、Constraints on the tempo of Japanese explosive volcanism from the Lake Suigetsu (SG06) sedimentary record のタイトルで Paul Albert 氏 (オックスフォード大学 Research Laboratory for Archaeology and the History of Art) が、Cryptotephra in Lake Suigetsu: The key to resolving eruption chronologies and synchronising palaeoenvironmental records in Japan のタイトルで Victoria Smith 氏 (オックスフォード大学 Research Laboratory for Archaeology and the History of Art) がそれぞれ順番に講演しました。Paul Albert 氏は現在、Leverhulme Trust Early Career Fellowship という立場のポスドク研究者であり、水月湖テフラをはじめ、アイスランド、地中海地域のテフラ研究を進めている若手研究者です。School of Archaeology の Associate Professor である Victoria Smith 氏は、南米からイタリア、そして水月湖でのテフラ研究のキャリアがあり、研究の中心的立場にいます。AT 論文 (Smith et

al., 2013) の筆頭著者でもあります。

講演はいずれも 40 ~ 50 分程度の講演と質疑応答から構成され、十分な時間をかけた詳細な内容に踏みこんだ講演でした。Paul Albert 氏の講演は水月湖のコアで目視できる過去約 10 万年間の指標テフラの対比を基本にしたものであり、給源地域毎のテフラ特性の違いや幾つかの火山の噴火サイクルなど、岩石学や火山学的内容におよぶ議論もなされました。その骨子は Albert et al. (2018) に沿った内容ですが、まだ未対比のテフラに関する今後の研究の必要性や見通しについての紹介もありました。Victoria Smith 氏の講演は肉眼では識別が困難な cryptotephra に関する内容であり、水月湖コアから cryptotephra を検出したことにより火山灰編年学の精度が格段に向上したことの成果とそれをういた古環境復元を解説するものでした。水月湖の cryptotephra に関しても McLean et al. (2016) と McLean et al. (2018) が発表されたばかりであり講演の内容もそれに沿ったものです。この 2 本の論文は B-Tm や完新世の cryptotephra に焦点を当てたものです。1 万年以前の cryptotephra も当然今後の課題であり、講演ではその一部に触れられ今後の見通しについても言及がありました。なお両論文の筆頭著者である Danielle McLean 氏も来日していましたが日程の都合で今回は講演ができませんでした (同氏は昨年 7 月に首都大で講演をしています)。

今回は講演前の午前中に両氏が相模原市立博物館を訪れ、同館に収蔵されているテフラサンプルの視察と第四紀学的な展示を閲覧するなど忙しい日程でしたが、講演後は南大沢駅周辺での歓迎会を楽しむなど充実していたことかと思えます。講演会の周知期間が一ヶ月程度で短く、しかも日程が平日の午後であったために参加者数が少ないことを心配しておりましたが、合計 26 名の出席者があり、しかも京都やつくばなど遠路からの参加者をはじめ、研究者、コンサルタント関係者など様々な立場の方々もおり、主催側として実りある講演会であったと感じています。とくに何時間もかけて講演会に駆けつけて頂いた参加者がいることを両氏に伝えたら大変感激しておりました。最後に今回の講演会を開催するにあたりご協力頂きました日本第四紀学会の領域関係者、院生・学生の皆さん、年度末のお忙しいところ出席頂いた方々、そして講演されたお二方に感謝の意を表したいと思います。

Albert, P.G., Smith, V.C., Suzuki, T., Tomlinson, E.L., Nakagawa, T., McLean, D., Yamada, M., Staff, R.A., Schlolaut, G., Takemura, K., Nagahashi, Y., Kimura, J., Suigetsu 2006 Project Members, 2018. Constraints on the frequency and dispersal of explosive eruptions at Sambe and Daisen volcanoes (South-West Japan Arc) from the distal Lake Suigetsu record (SG06 core). *Earth-Science Reviews*, 185, 1004–1028.

McLean, D., Albert, P.G., Nakagawa, T., Staff, R.A., Suzuki, T., Suigetsu 2006 Project Members, Smith, V.C., 2016. Identification of the Changbaishan 'Millennium' (B-Tm) eruption deposit in the Lake Suigetsu (SG06) sedimentary archive, Japan: Synchronisation of hemispheric-wide palaeoclimate archives. *Quaternary Science Reviews*, 150, 301–307.

McLean, D., Albert, P.G., Nakagawa, T., Suzuki, T., Staff, R.A., Yamada, K., Kitaba, I., Haraguchi, T., Kitagawa, J., SG14 Project Members, Smith, V.C., 2018. Integrating the Holocene tephrostratigraphy for East Asia using a high-resolution cryptotephra study from Lake Suigetsu (SG14 core), central Japan. *Quaternary Science Reviews*, 183, 36–58.

Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., C.B.Ramsey, Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danhara, T., Suigetsu 2006 Project Members, 2013. Identification and correlation of visible tephtras in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronising of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. *Quaternary Science Reviews*, 67, 121–137.



水月湖テフラ研究に関する講演会（左：Victoria Smith 氏、右：Paul Albert 氏）
2019年2月13日、首都大学東京南大沢キャンパス

◆ 2018 年度第 1 回電磁的な評議員会議事録

領域 4 から選出された山岡拓也会員が海外研究のため長期不在になるため、同じ領域 4 の亀井 翼会員へ編集委員を交代する件について編集委員会から提案があり、2018 年 10 月 17 日から 10 月 24 日にかけて電磁的な評議員会を行った結果、過半数の賛同が得られ、承認された。

◆ 2018 年度第 2 回電磁的な評議員会議事録

編集委員会から提案があった「第四紀研究投稿規程」の一部改訂について、2019 年 1 月 5 日から 1 月 12 日にかけて電磁的な評議員会において審議を行った。審議の結果、賛成 26 名・反対 1 名の回答があり、過半数を超える評議員から賛同が得られたため、原案通り（下記参照）に一部改訂することが承認された。なお、「投稿規定」に関する意見や今回の審議を電磁的な評議員会で行ったことに関する意見が寄せられたため、それぞれ編集委員会および執行部会で検討することとした。

「第四紀研究投稿規定」改訂案

【現行】

4. 投稿手続き

投稿者は封筒に「第四紀研究原稿」と明記して原稿・図・図版・表・送り状* のコピー 3 部とその電子ファイルを、必要な署名がされた投稿原稿内容の保証書* とともに、編集委員会（本規定の末尾及び会誌奥付の学会事務局の住所）に送付する。なお、編集委員会から要請があった場合には、図・図版・表の原図を提出する。

付則

原稿送付先：〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内 日本第四紀学会編集委員会

【改訂案】（下線部は変更箇所）

4. 投稿手続き

投稿は以下のいずれかによる。

郵送による投稿の場合は、封筒に「第四紀研究原稿」と明記して原稿・図・図版・表・送り状* のコピー 3 部とその電子ファイルを、必要な署名がされた投稿原稿内容の保証書* とともに、編集委員会（本規定の末尾及び会誌奥付の学会事務局の住所）に送付する。なお、編集委員会から要請があった場合には、図・図版・表の原図を提出する。

電子投稿の場合は、「原稿・図・図版・表・送り状*・投稿原稿内容の保証書*(署名入り)」を PDF 形式で保存し、電子メールの添付書類として、編集委員会（本規定の末尾および会誌奥付の学会事務局のメールアドレス）に送付する。原稿・図・図版・表は可能な限り一つのファイルとする。ファイルが 5MB より大きい場合には大容量ファイル転送サービスを利用する。

付則

原稿送付先：〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内 日本第四紀学会編集委員会
メールアドレス [daiyonki\(at\)shunkosha.com](mailto:daiyonki(at)shunkosha.com)

◆日本第四紀学会 2018 年度第 5 回執行部会議事録

日時：2019 年 3 月 10 日（日）9:30～12:30
 会場：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス、
 会議室 C 東京都千代田区外神田 1-18-13
 秋葉原ダイビル 12 階
 出席：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、松
 浦秀治（副会長）、吾妻 崇（庶務委員会）、
 三浦英樹（会計委員会）、北村晃寿（編集委
 員会）、百原 新（広報委員会）、小荒井
 衛（渉外委員会）、須貝俊彦（領域 2）、兵
 頭政幸（領域 3）、植木岳雪（領域 5）
 欠席：藤原 治（行事委員会）池原 研（領域 1）、

高原 光（領域 4）、
 オブザーバ：永峯（学会事務局）
 1) 各常設委員会の委員長と領域代表から活動報告
 が行われた。
 2) 2019 年大会の準備状況を確認した。
 3) 受賞者記念講演会および第 3 回評議員会の開催
 日程について検討した。
 4) 2019-2020 年度役員選挙の状況および今後の予
 定について確認した。
 5) 次回執行部会を 4 月 27 日（土）に開催するこ
 ととした。

◆日本第四紀学会 2018 年度第 6 回執行部会議事録

日時：2019 年 4 月 27 日（土）9:30～12:30
 会場：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス、
 会議室 B 東京都千代田区外神田 1-18-13
 秋葉原ダイビル 12 階
 出席：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、松
 浦秀治（副会長）、吾妻 崇（庶務委員会）、
 三浦英樹（会計委員会）、北村晃寿（編集委
 員会）藤原 治（行事委員会）、百原 新（広
 報委員会）、小荒井 衛（渉外委員会）、池
 原研（領域 1）、須貝俊彦（領域 2）、兵頭
 政幸（領域 3）、高原 光（領域 4）、植木
 岳雪（領域 5）
 オブザーバ：永峯（学会事務局）、宮地良典（庶務
 委員会）
 議 事：
 (1) 委員会および領域から活動報告を行った。

(2) 役員選挙の結果ならびに次期役員の会合開催
 について確認した。
 (3) 会員の年齢構成および 2012 年度に行った組織
 改革検討の資料と現状との比較に基づく今後の会
 員動向ならびに学会会計について議論した。
 (4) 「投稿規定」の改訂について検討し、修正を加
 えた後、次回評議員会で一部改訂を諮ることとした。
 (5) 2019 年大会の準備状況および銚子ジオパーク
 との共同主催となることを確認した。
 (6) 5 月に開催される防災学術連携体の行事では
 発表を行わないこととし、秋に名古屋で開催され
 る行事に参加する方向で検討することとした。
 (7) 編集書記および広報書記への謝金について検
 討した。
 (8) 次回の執行部会を 6 月 23 日（日）午前に開催
 することとした。

以上

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報委員長：百原 新 (arata(at)faculty.chiba-u.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性
ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 20 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 千葉大学大学院 園芸学研究科 百原 新
〒 271-8510 千葉県松戸市松戸 648 FAX : 047-308-8720

広報書記：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子・岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイル
を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176